(別紙)

成果の説明書

(氏名)唐澤 達之	(学部)経済
<p>1 重要事項</p> <p>(1)中世・近世ヨーロッパの兄弟会に関する共同研究への関わり</p> <p>中世後期から近世にかけてヨーロッパ全域で展開した兄弟会 (guild, fraternity, 俗人による宗教的な性格の相互扶助団体) に関する共同研究に昨年度より引き続き参加した。2013年度は、イングランドの兄弟会の近世における変容を概観する論稿と、近世イングランドの個別事例研究としてノリッジの聖ジョージ・カンパニーに関する論稿を書き上げることができた。後者は、イギリス近世都市における都市支配層の社交について政治文化の観点から論じたものである。この共同研究の成果は、東京大学出版会から 2014年 8～9月に刊行される予定であり、拙稿もすでに入稿済みである。中世・近世全体、ヨーロッパ全体を見渡した兄弟会研究は日本にも欧米にもないので、刊行されれば画期的な研究となることが期待される。</p> <p>(2)「近世イングランドの都市コミュニティと移民——ノリッジのオランダ人とワロン人——」(単著)、弘末雅士編『越境者の世界史——奴隷・移住者・混血者——』春風社、2013年、所収の刊行</p> <p>本書の出发点は、2007～2010年度に採択された科学研究費基盤研究(A)「近代移行期の港市における奴隷・移住者・混血者——広域社会秩序と地域秩序——」(研究代表者：弘末雅士)による共同研究である。本研究は、世界の諸海域世界(環シナ海世界、環インド洋世界、環地中海世界、環大西洋世界、環太平洋世界)のつなぎ目となった港市に着目し、そこに来航した人々と交流を持ち、外部世界と現地社会を仲介した奴隷・移住者・混血者が近代移行期の広域社会秩序や地域秩序の形成に果たした歴史的役割に関する比較研究である。標記の論稿は、主権国家体制形成期のヨーロッパにおける移民の発生メカニズムと、移住先のホストとなるコミュニティにおける移民の受容のあり方について、16～17世紀ノリッジのケースを中心に論じた。</p> <p>なお、本書は、日本図書館協会選定図書に選定され、すでに社会的に高い評価を得ているが、書評などを通じた学界における評価を待つところである。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>(1)経済学部長としての業務</p> <p>2013年度4月より経済学部長となり、教授会の運営、入試業務、高校訪問・大学訪問・後援会と同窓会の地方支部における広報活動、公立大学協会商・経・経営部会への出席など、学部長業務に多くの時間を費やした。昨年度のとりわけ大きな課題は新カリキュラム導入に向けての準備(開講科目および担当者の決定、時間割編成方針の策定、履修モデルの作成など)であったが、教職員の全面的な協力を得て、当初の予定通り、2014年度実施にこぎつけることができた。</p> <p>(2)学会における活動</p> <p>比較都市史研究会の幹事として、例会(年8回)の企画、会誌『比較都市史研究』の編集刊行(年2回)、会計の管理などに関わった。</p>	